

2020年3月期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2020年5月13日

概況

企業の設備投資は依然、慎重な見方が続くものの、当社を取り巻く
需要環境は底堅く推移

新型コロナウイルスの感染拡大は期末にかけて、一部地域に影響

1. 多岐にわたる販売地域、顧客業種によりリスク分散の効いたポートフォリオが業績を下支え
2. 中国は安全意識の高まりに加え、好調業種の需要を捉えたことで、業績は伸長
3. 新型コロナウイルスの感染拡大は、欧州など一部地域で事業活動に影響

業績

(単位：百万円)	2020/3 期	前期比	計画比
売上高	58,722	△4.1%	△2.1%
営業利益	5,474	△14.6%	△8.8%
当期純利益※	3,204	△21.2%	△13.4%

※親会社株主に帰属する当期純利益 / 為替平均レート 1ドル = 108.7円

1

2020年3月期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業構造について

2020年3月期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2019/3期	2020/3期	前期比
売上高	61,238	58,722	△4.1%
売上総利益 (売上総利益率)	22,545 (36.8%)	21,979 (37.4%)	△2.5%
営業利益 (営業利益率)	6,413 (10.5%)	5,474 (9.3%)	△14.6%
営業外収益	245	291	
営業外費用	910	773	
経常利益 (経常利益率)	5,748 (9.4%)	4,991 (8.5%)	△13.2%
特別損益	74	△105	
法人税等	1,619	1,575	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	4,064 (6.6%)	3,204 (5.5%)	△21.2%
EBITDA =営業利益+償却費	9,201	8,508	

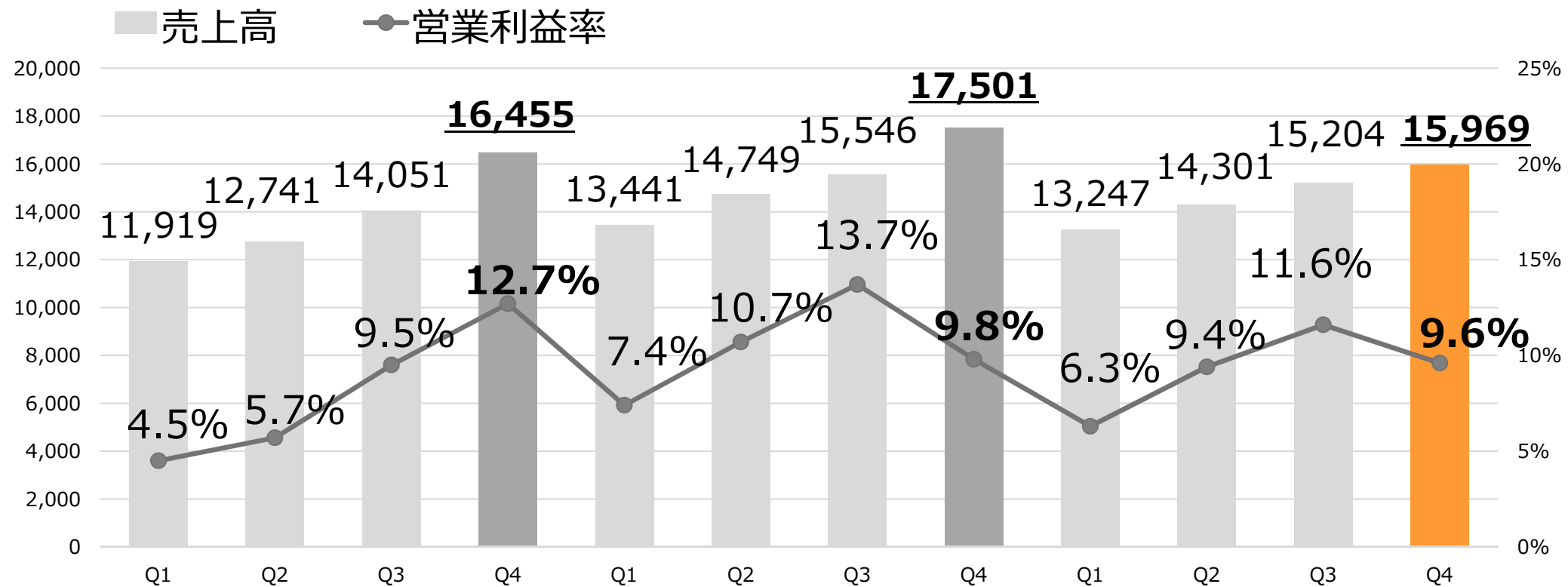
注 為替レート (2019/3期→2020/3期) :

USD 110.9円→108.7円 CAD 84.6円→81.8円 EUR 128.4円→120.8円 RMB 16.7円→15.8円

売上高および営業利益率

地域、業種分散の効いた幅広いポートフォリオが業績を下支え

(単位：百万円)



営業利益	538	730	1,338	<u>2,092</u>	992	1,572	2,131	<u>1,717</u>	837	1,339	1,769	<u>1,526</u>
------	-----	-----	-------	--------------	-----	-------	-------	--------------	-----	-------	-------	--------------

2018/3期
売上高 55,168
営業利益 4,698

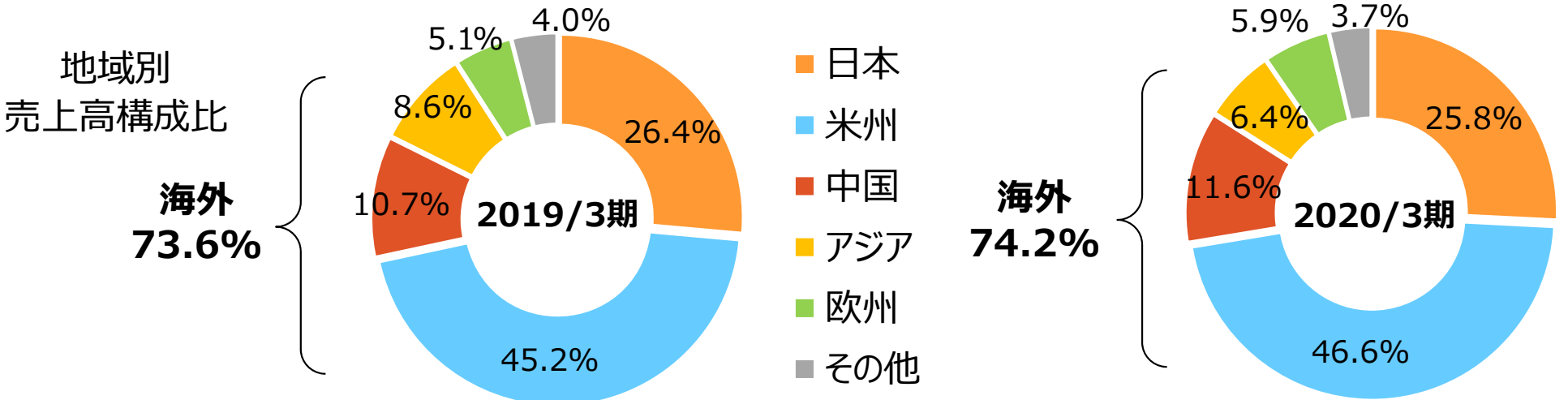
2019/3期
売上高 61,238
営業利益 6,413

2020/3期
売上高 58,722
営業利益 5,474

地域別の状況

(単位：百万円)	2018/3期		2019/3期		2020/3期		前期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	55,168	100.0%	61,238	100.0%	58,722	100.0%	△2,516	△4.1%
日本	13,261	24.0%	16,162	26.4%	15,174	25.8%	△987	△6.1%
米州	26,700	48.4%	27,663	45.2%	27,332	46.6%	△330	△1.2%
中国	5,903	10.7%	6,539	10.7%	6,822	11.6%	282	+4.3%
アジア	4,837	8.8%	5,239	8.6%	3,729	6.4%	△1,510	△28.8%
欧州	2,060	3.7%	3,204	5.1%	3,467	5.9%	263	+8.2%
その他	2,404	4.4%	2,430	4.0%	2,196	3.7%	△234	△9.6%

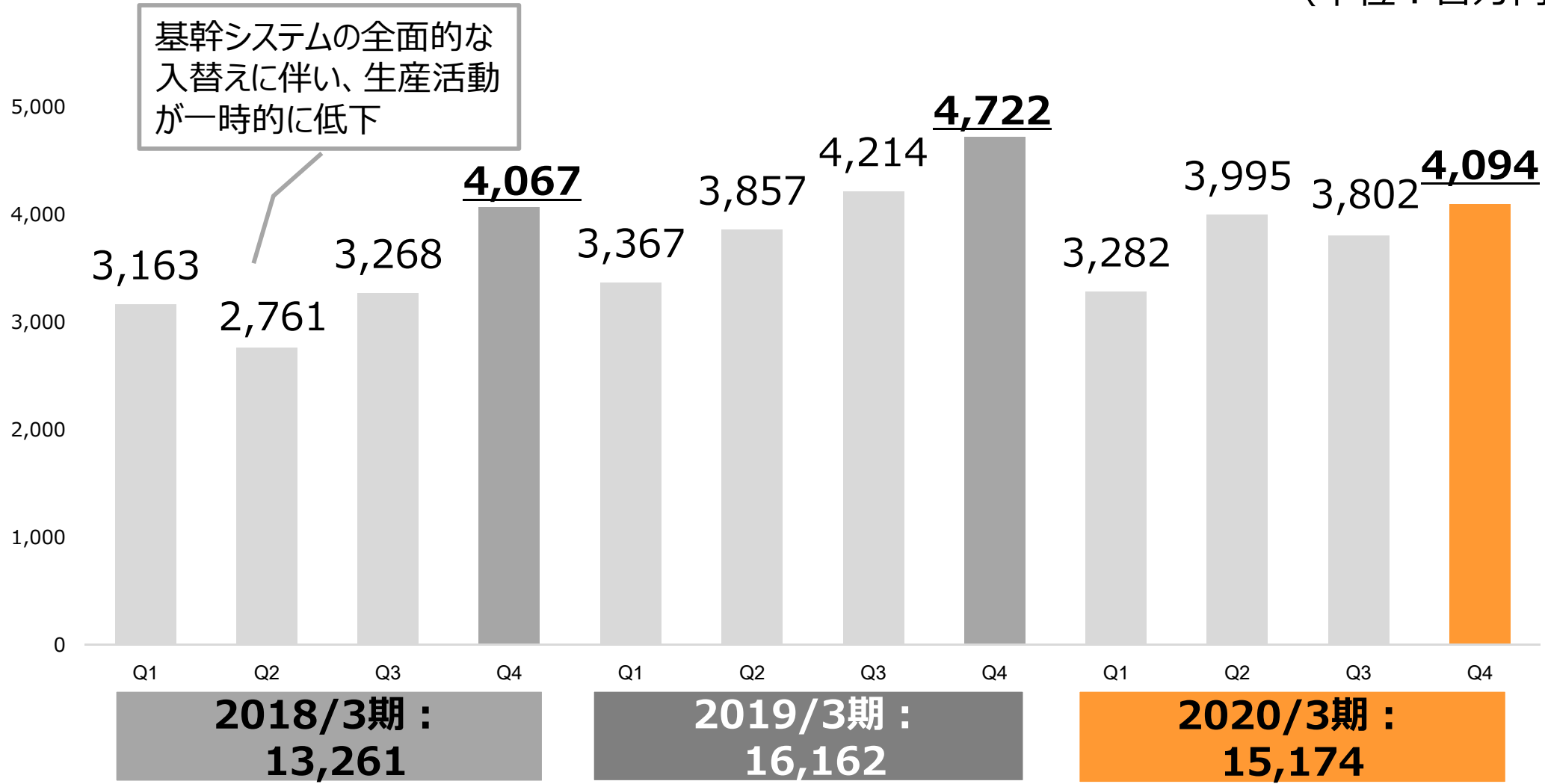
注 為替レート (2019/3期→2020/3期) :
 USD 110.9円→108.7円 CAD 84.6円→81.8円 EUR 128.4円→120.8円 RMB 16.7円→15.8円



地域別売上高（日本）

- Q2までにおける堅調な出荷も、Q3以降、足元はやや弱含み
- インフラ需要に繋がる、レンタル業界向け手動品販売に一服感

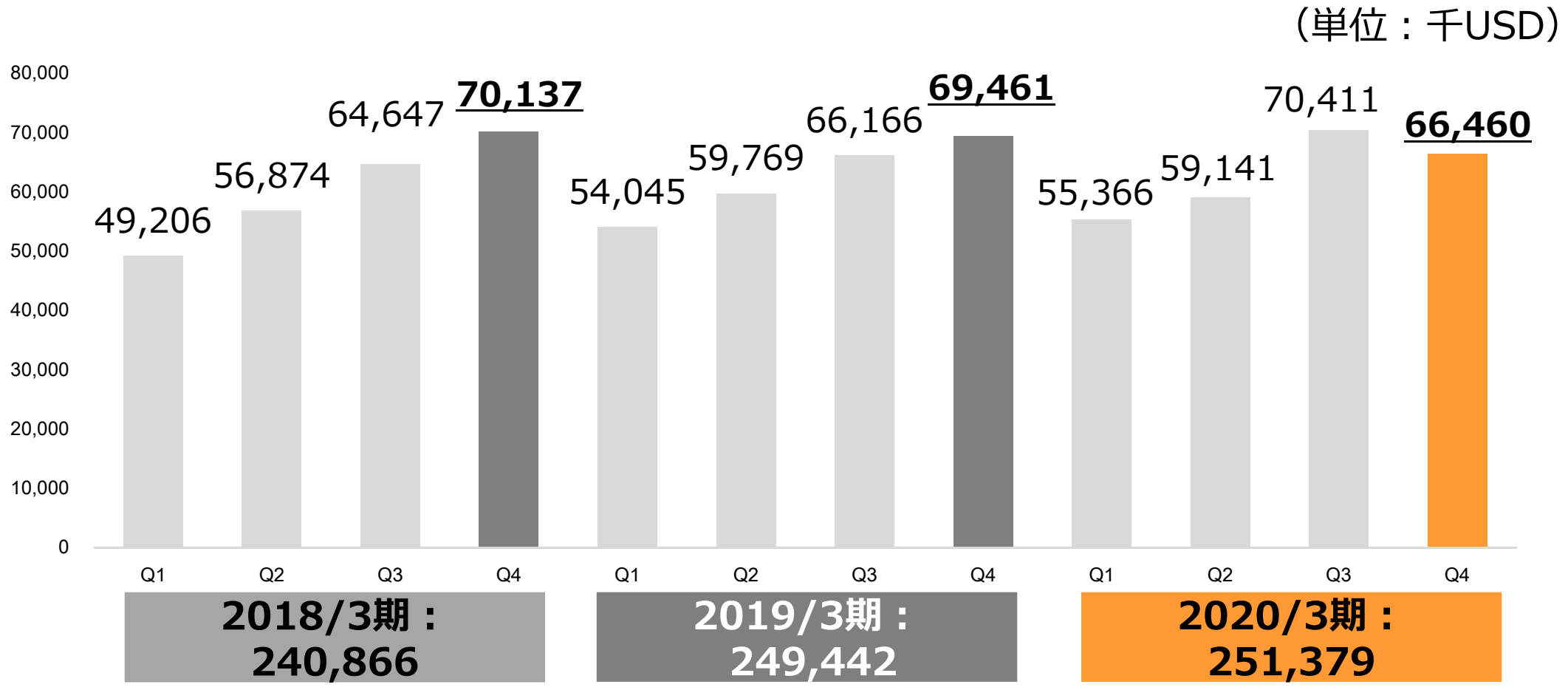
(単位：百万円)



地域別売上高（米州）

※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USDドル換算）を加算した金額の推移

- 対中貿易摩擦、政権運営により不透明感が拡大するも、受注は堅調
- 新型コロナウイルス感染症拡大による影響が期の終盤において表面化

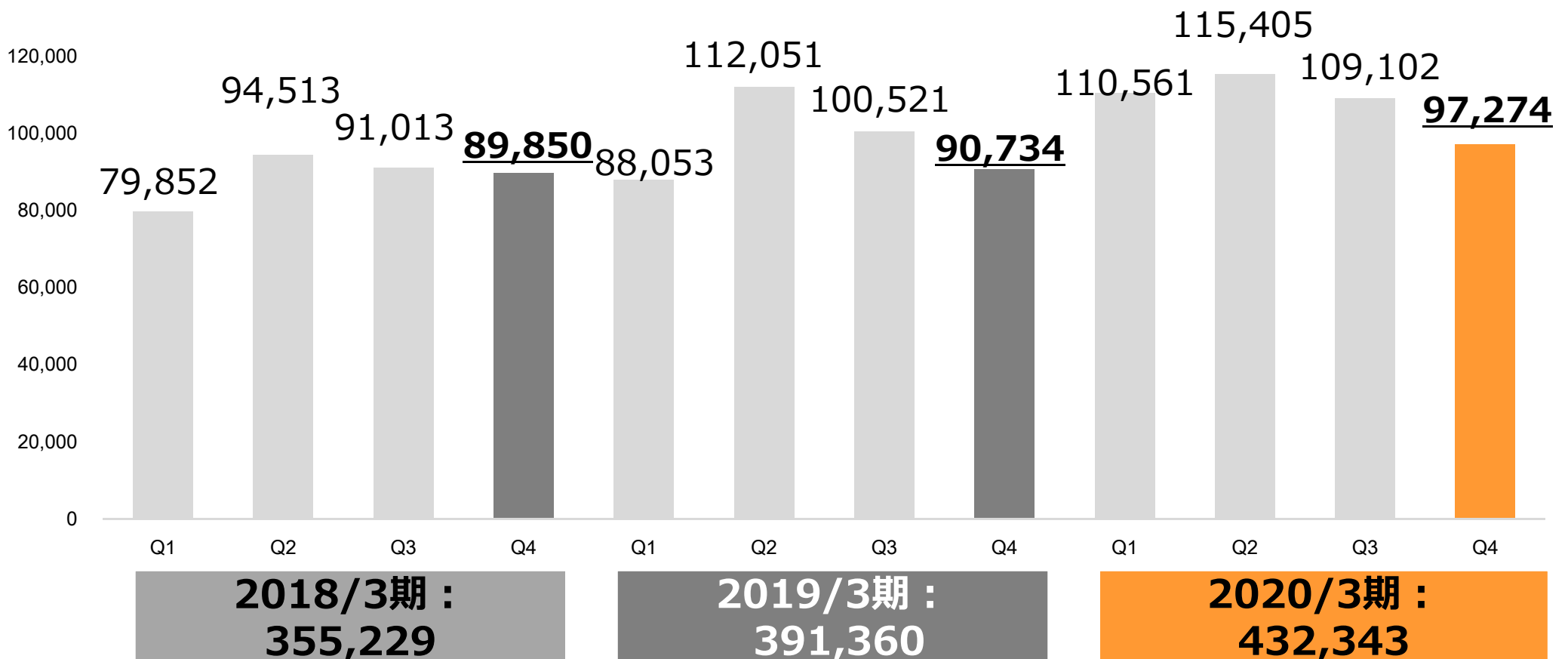


地域別売上高（中国）

※中国は1-12月決算

- 景気全体が弱含む中、内需好調産業が業績を牽引
- 安全意識の高まりによりシェアは拡大傾向、増収トレンドを継続
- 収益性を重視した事業運営により着実な利益を計上

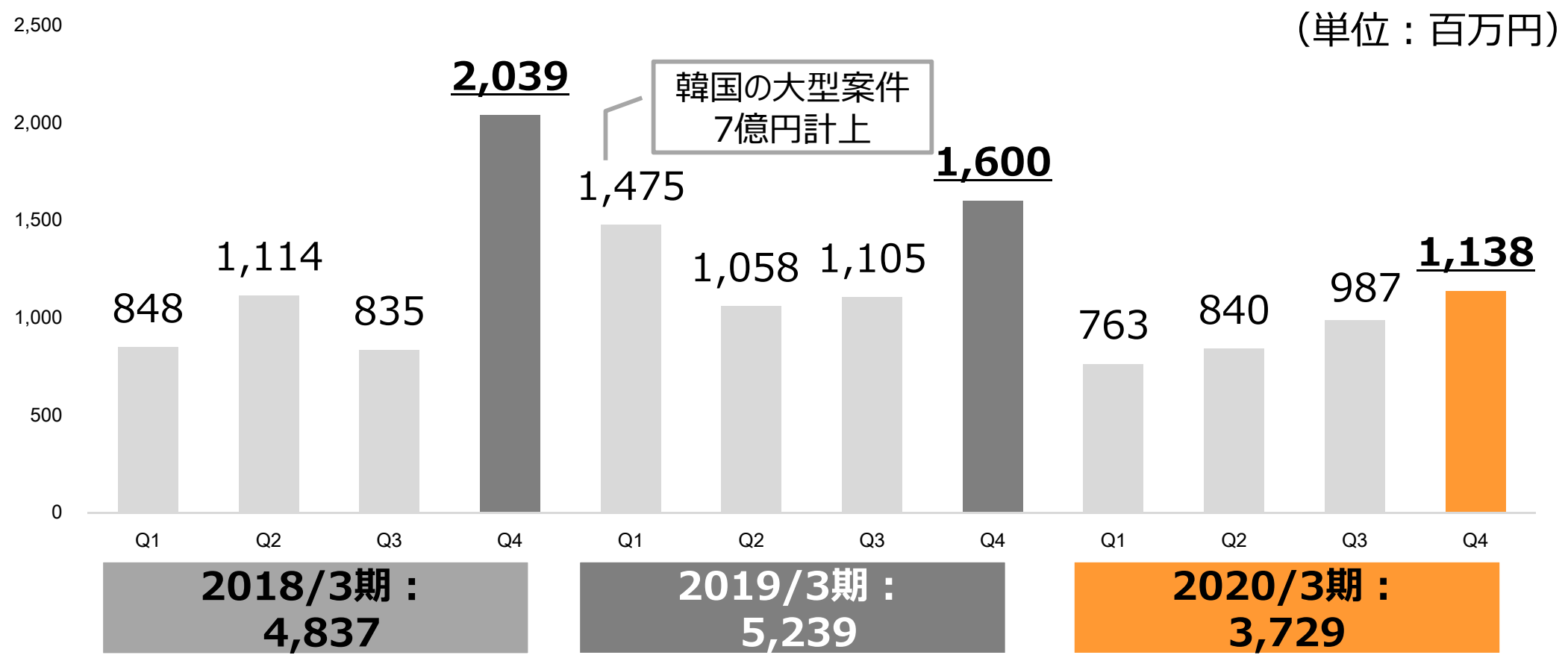
（単位：千RMB）



地域別売上高 (アジア)

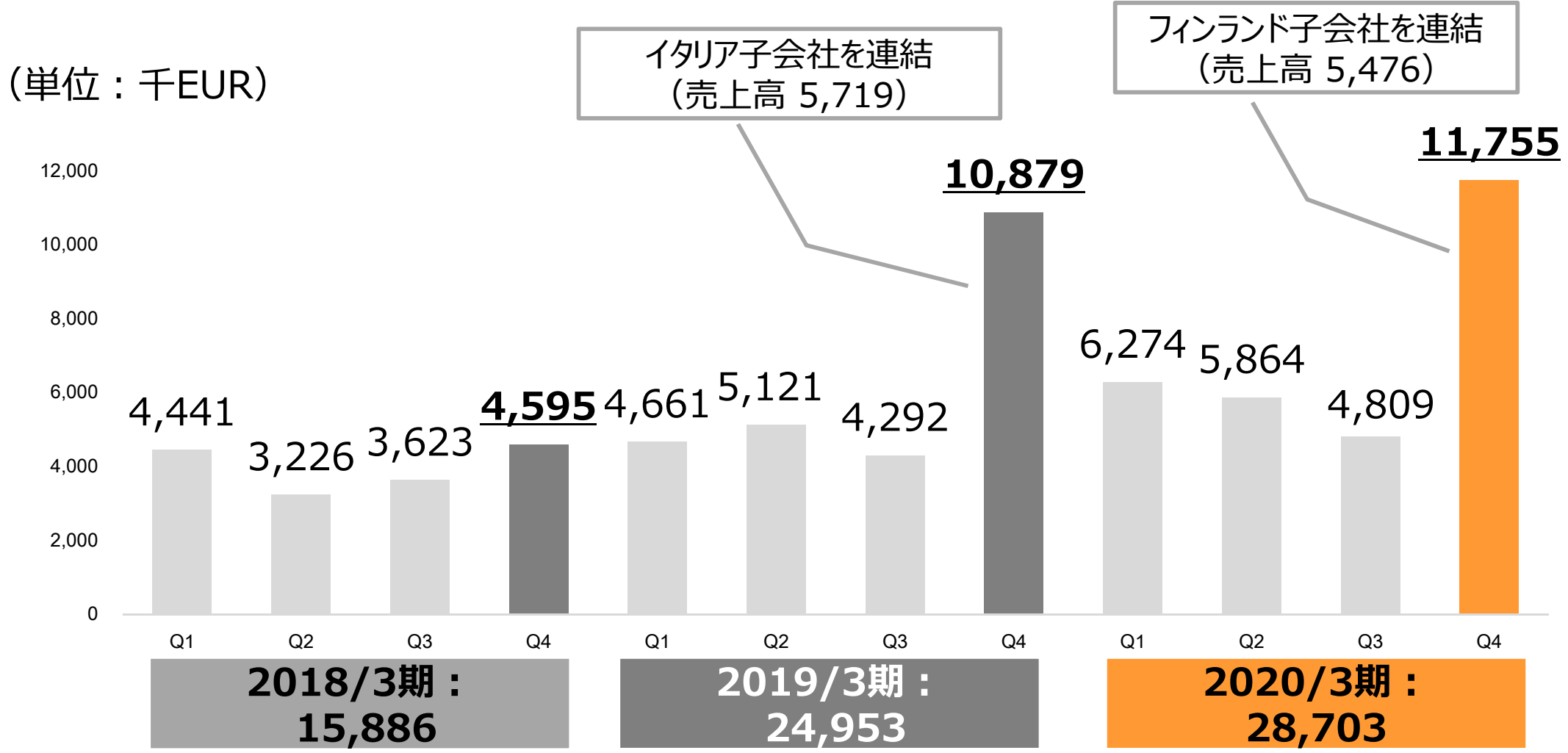
※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

- 韓国は前年計上の大型案件及び経済全体の減速の影響により減収
- 東南アジアの自動車関連産業は減速するも、事業構造見直しにより収益力向上



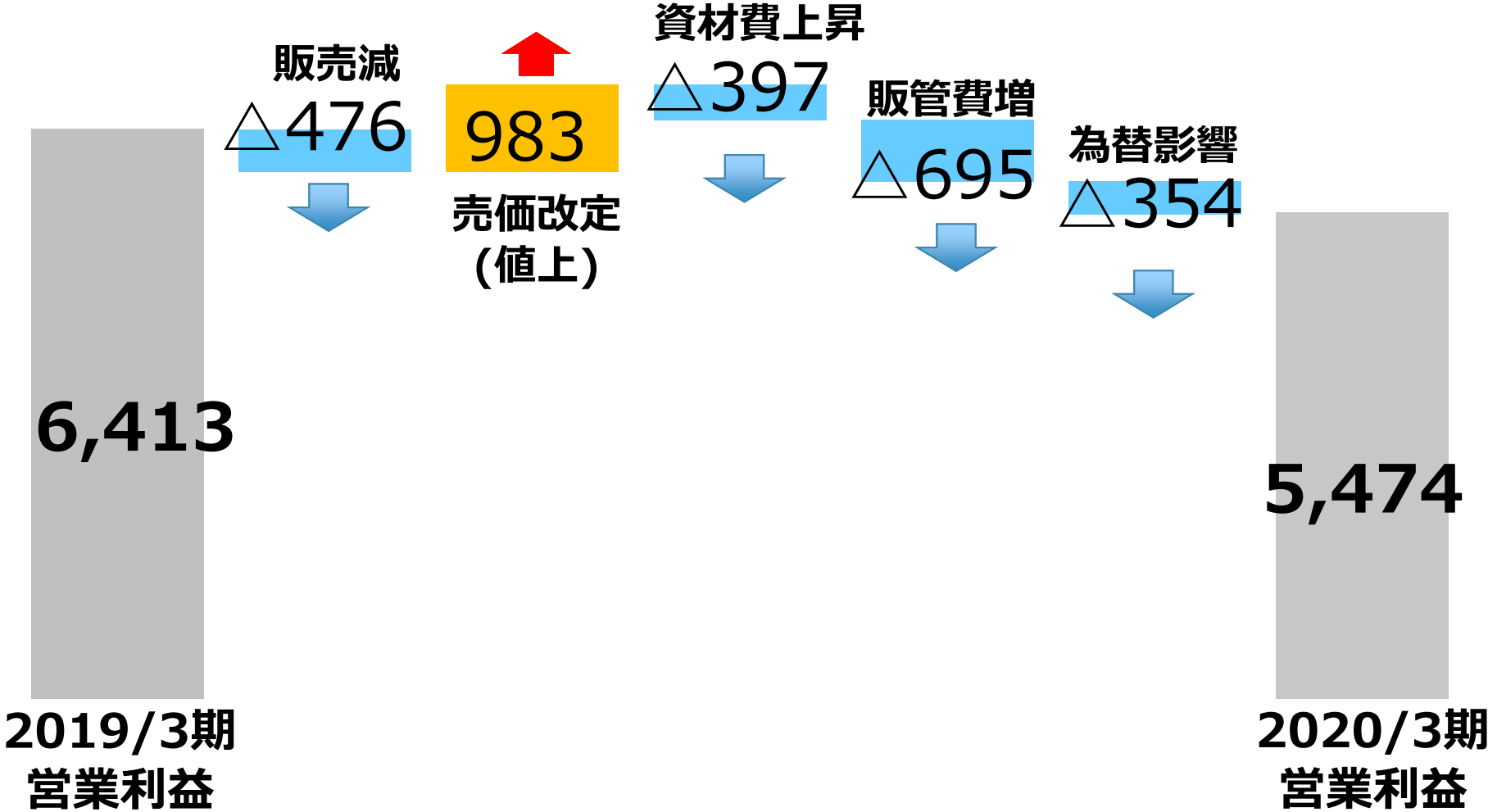
地域別売上高（欧州）

- 2019/3期末にイタリア子会社、2020/3期末にフィンランド子会社の当該1年間の業績を連結化。
- 景気減速感は強まるものの、業種を絞った拡販施策に注力



営業利益の比較

(単位：百万円)



2020年3月期 連結貸借対照表

単位：百万円	2019/3期	2020/3期	増減額
流動資産	40,524	40,046	△477
現金及び預金	8,678	9,468	789
受取手形及び 売掛金	12,587	11,088	△1,498
たな卸資産	17,924	18,097	172
その他	1,333	1,392	58
固定資産	21,554	22,757	1,203
有形固定資産	11,283	12,752	1,468
無形固定資産	6,093	5,319	△774
投資その他の資産	4,176	4,686	509
資産合計	62,078	62,804	725

単位：百万円	2019/3期	2020/3期	増減額
流動負債	20,183	20,263	79
支払手形及び 買掛金	6,483	5,668	△814
短期借入金*	6,832	7,523	690
その他	6,867	7,070	203
固定負債	15,207	14,613	△593
長期借入金	11,962	10,808	△1,154
その他	3,244	3,805	560
純資産合計	26,687	27,927	1,240
負債純資産合計	62,078	62,804	725

* 1年内返済予定の長期借入金を含む

連結キャッシュ・フロー

単位：百万円	2019/3 期	2020/3 期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	3,553	5,374	1,820
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,580	△2,826	△1,246
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,279	△1,671	2,607
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△67	△86	△19
現金及び現金同等物 の増減額	△2,373	789	3,167
現金及び現金同等物 の期末残高	8,504	9,297	793

<2020/3期の主な内容>

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益：	4,885
減価償却費：	2,711
売上債権の減少：	1,343
たな卸資産の増加：	△499

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出：	△1,416
無形固定資産の取得による支出：	△272
関係会社株式の取得による支出：	△1,287

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額：	△979
長期借入れによる収入：	3,500
長期借入金の返済による支出：	△4,289

1

2020年3月期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業構造について

2021年3月期の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症による需要への影響を現段階において合理的に算定することが困難な状況となっております

あらためて算定が可能となった時点で速やかに開示いたします

新型コロナウイルス感染症による影響 (2020年5月13日現在)

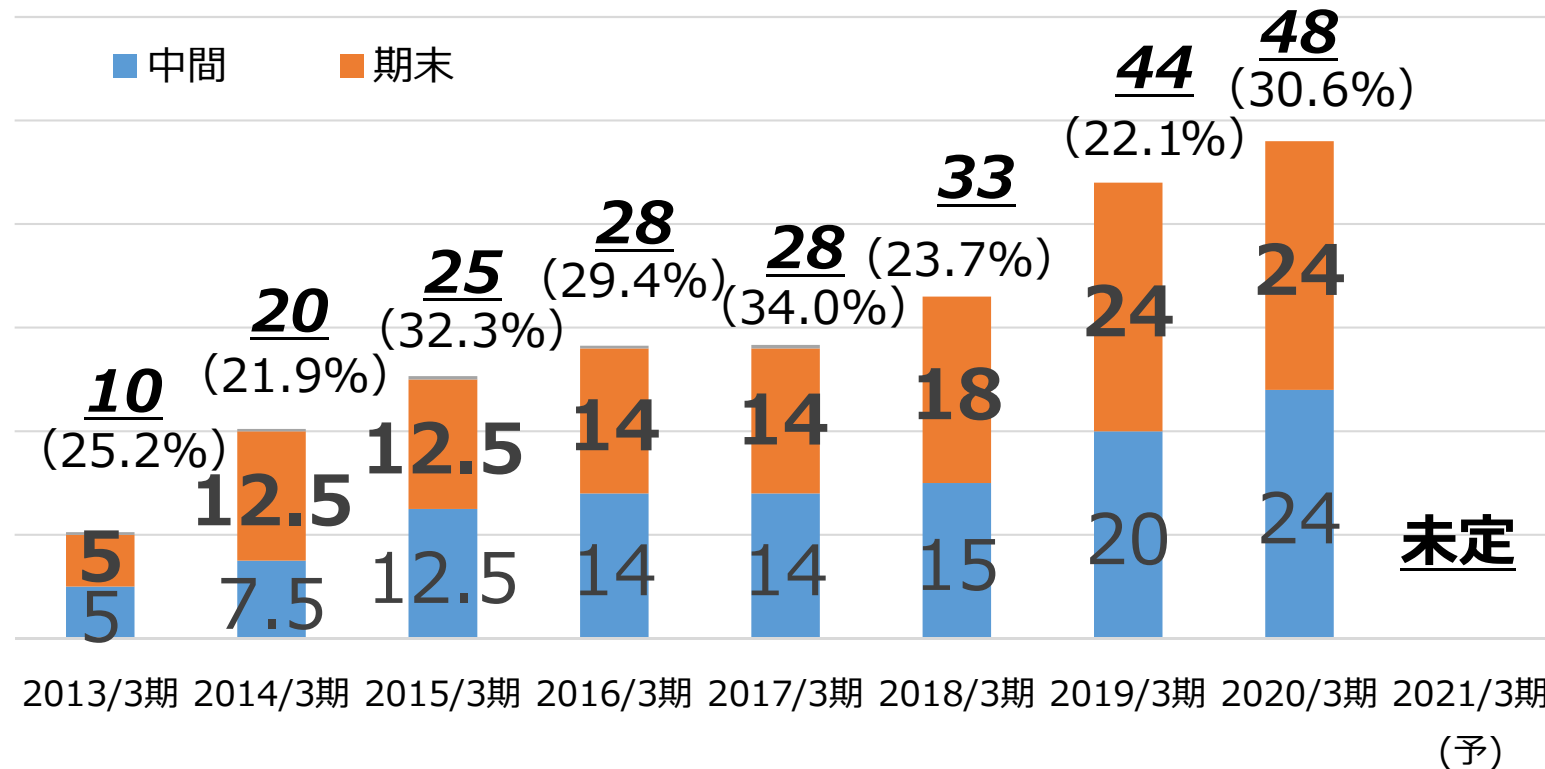
- 経済活動の低下による需要の減少があるものの、地域ごとの制約の中、最大限の顧客サービスを継続しております。なお、日・米・中における生産活動は通常通り行われております
- 現時点（2020年5月13日現在）において、当社子会社拠点のうち、インド（販売子会社）のみが、政府指示によるロックダウンに伴い、稼働が大幅に制限されています
- 現在、当社グループ各社においては、テレワークの活用、ソーシャルディスタンスの確保等々、徹底した感染防止策を図り操業を継続しております

株主還元方針／配当予想

配当性向20%以上を目処

2021/3期配当予想は、現時点で適正かつ合理的な業績予想の算定が困難なことから未定としております

1株当たり年間配当額
(配当性向)



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2020年3月期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

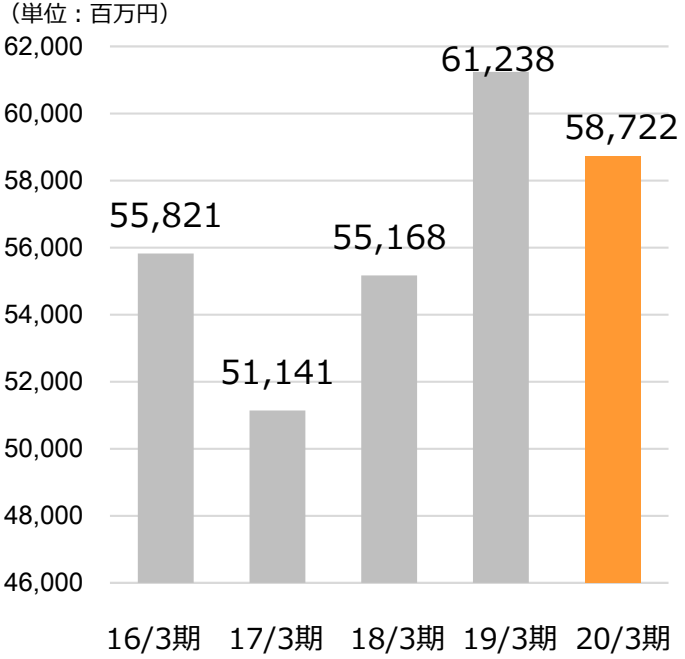
3

参考資料

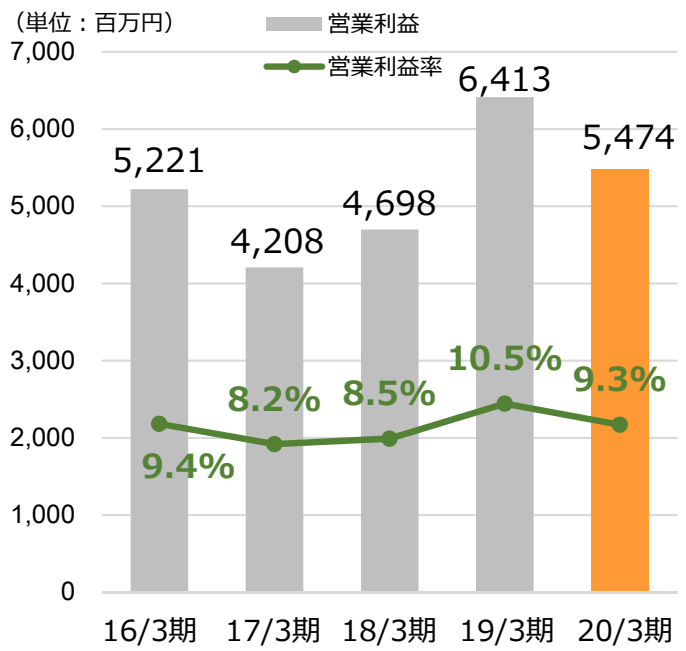
- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業構造について

業績・財務情報

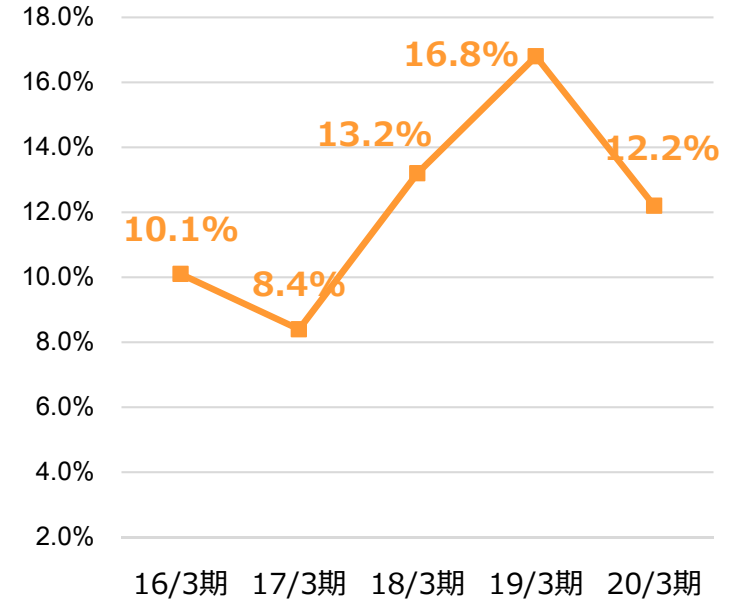
売上高



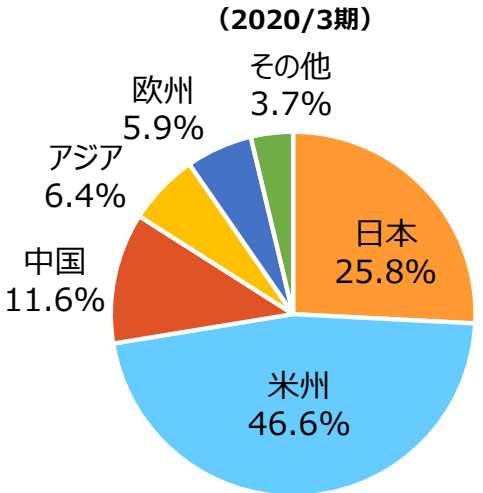
営業利益・営業利益率



ROE



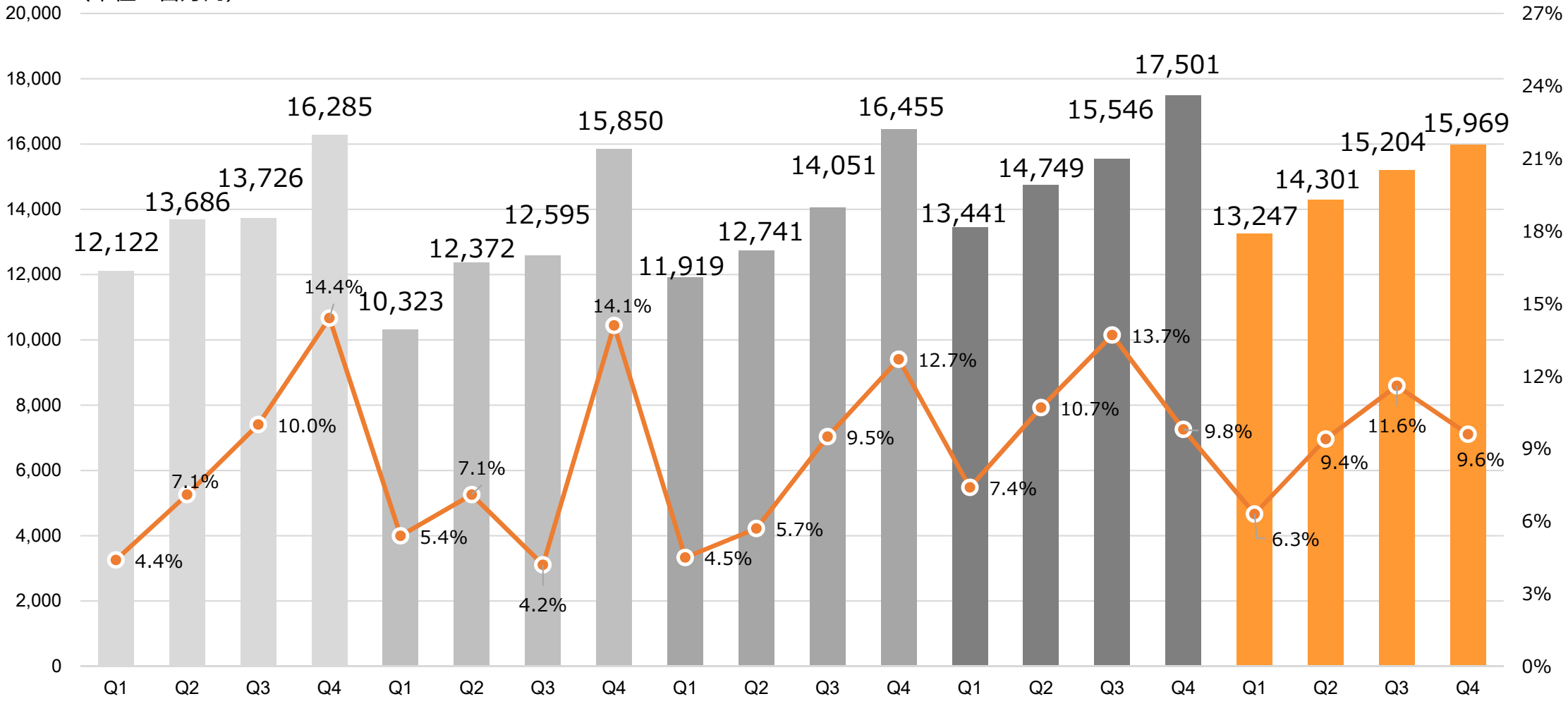
地域別売上高比率



	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
海外比率	77.3%	74.3%	76.0%	73.6%	74.2%
為替平均レート					
USD	120.1円	108.4円	110.9円	110.9円	108.7円
CAD	91.8円	82.5円	86.5円	84.6円	81.8円
EUR	132.6円	118.8円	129.7円	128.4円	120.8円
RMB	19.2円	16.4円	16.6円	16.7円	15.8円
設備投資額(百万円)	2,013	2,393	1,411	1,416	1,689
減価償却費(百万円)	1,814	1,792	2,116	2,470	2,711

売上高および営業利益率（四半期比較）

(単位：百万円)



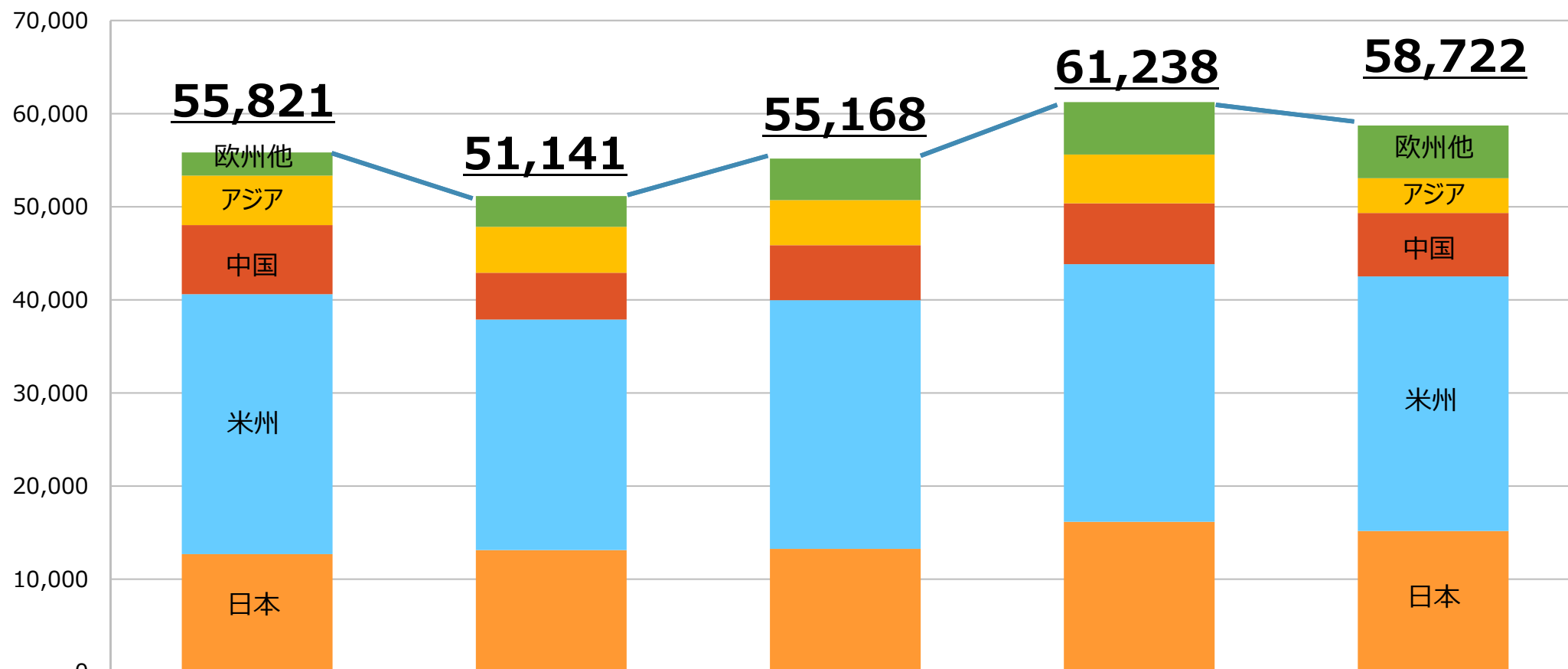
営業利益

538 966 1,371 2,345 561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717 837 1,339 1,769 1,526

2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
売上高 55,821	売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238	売上高 58,722
営業利益 5,221	営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413	営業利益 5,474

地域別売上高推移

(単位：百万円)



	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
■ 欧州他	2,479	3,308	4,465	5,634	5,663
■ アジア	5,321	4,925	4,837	5,239	3,729
■ 中国	7,418	5,034	5,903	6,539	6,822
■ 米州	27,909	24,742	26,700	27,663	27,332
■ 日本	12,692	13,129	13,261	16,162	15,174

中期経営計画 (2017年3月期-2021年3月期)

基本方針

3つの基本方針による“KITO SPIRIT”を原動力とした推進

- 1) 「顧客満足の上昇」を第1の基本方針とする。
- 2) それを実現する「効率的で機能的な組織」を作る。
- 3) そして、組織を作る「人」への積極的な投資を行う。

経営目標

2021年3月期



3つの経営目標に向け 収益倍増を目指す

1 高収益体質への回帰

- ・生産設備リニューアル
- ・高収益事業への集中

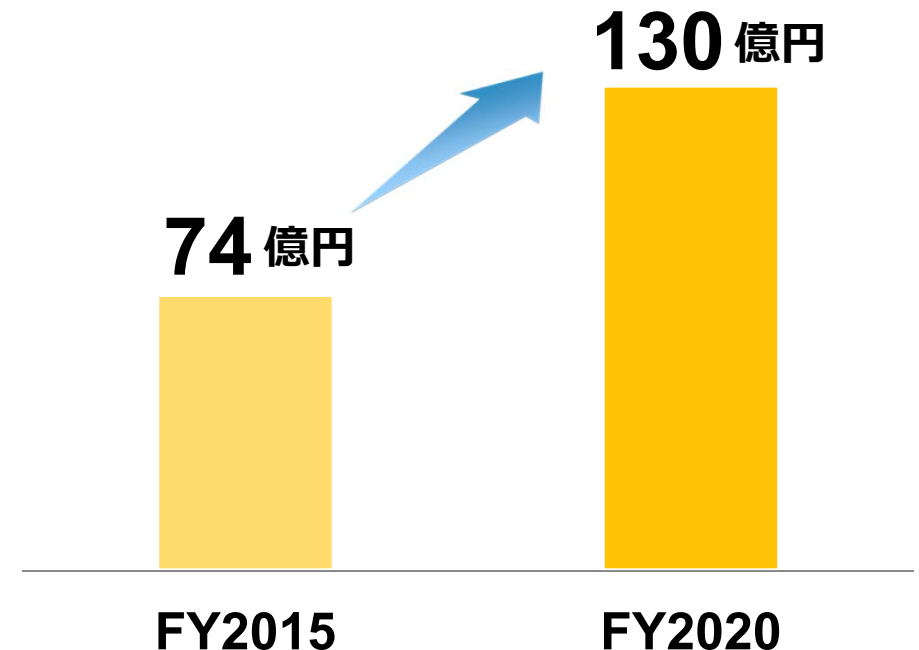
2 製品ポートフォリオ拡充による成長

- ・新製品の投入
- ・M & Aによる拡充
- ・既存製品の新市場への投入加速

3 真のグローバル企業への組織進化

- ・グローバル人材の採用と育成
- ・主要拠点における統一基幹システムの導入
- ・グループ内統一マーケティング・データベースの構築

Financial Target (EBITDA)



Phase1(基盤強化) から Phase2(本格的成長) へ

“Lifting Expectations”



事業構造

モノを持ち上げ、運び、固定する作業に不可欠な、 マテリアルハンドリング機器の リーディングカンパニー



経済の発展段階に応じた需要

特定の業界の動向に依存せず

成熟製品でありながら成長産業

■ クレーン

ホイストとの組合せで3次元の動きを実現



■ ホイスト（巻上機）

主力はクサリ(チェーン)式(電動・手動)
ワイヤロープ式もラインナップ(電動)
(中国においてはロープ式が主力)



■ ビローフックデバイス （吊り具）

ホイストで荷物を吊り上げる際の
中間アタッチメント



■ 各種クサリ製品

運搬・移動・固定・牽引
船舶、農林業、タイヤチェーンなど



顧客ニーズの拡大



信頼のブランド

“KITO” = “信頼のブランド”

製品力

- 耐久性
- 高性能
- 安全性
- 操作性

技術力

顧客の複雑なニーズへの高い技術対応力（エンジニアリング）

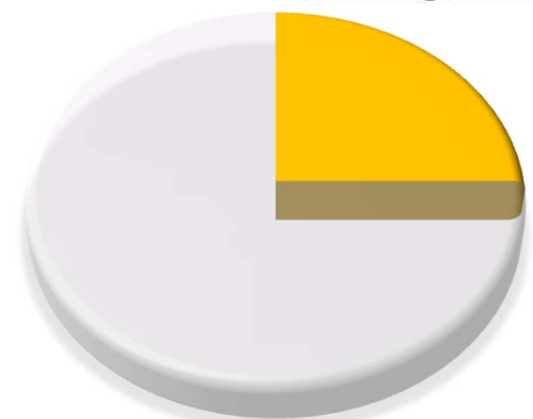
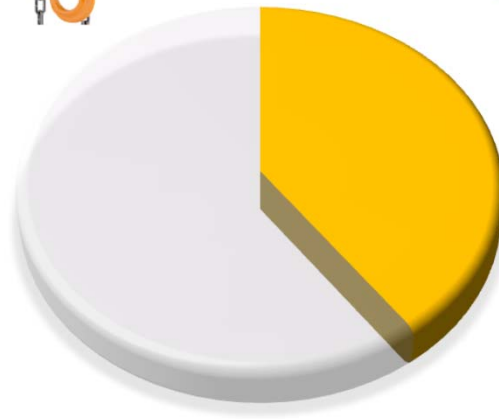
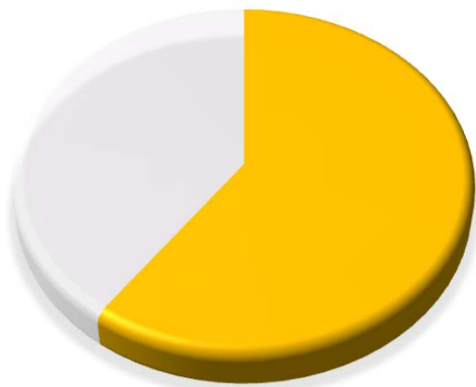
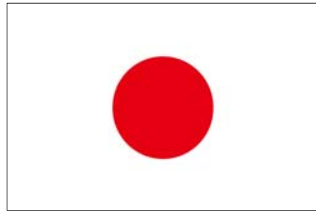
サービスネットワーク

広範なネットワークによる顧客満足度の高いサービスを実現



高付加価値製品・サービスの提供により差別化を実現
高品質市場での高い評価

信頼に基づく高いシェア



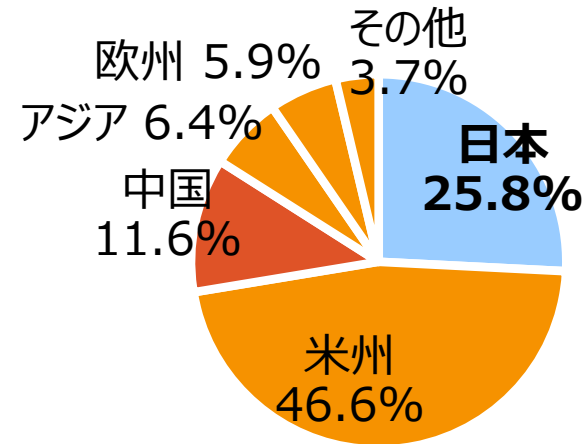
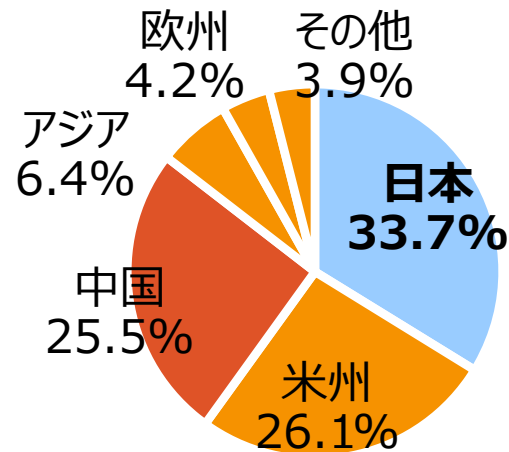
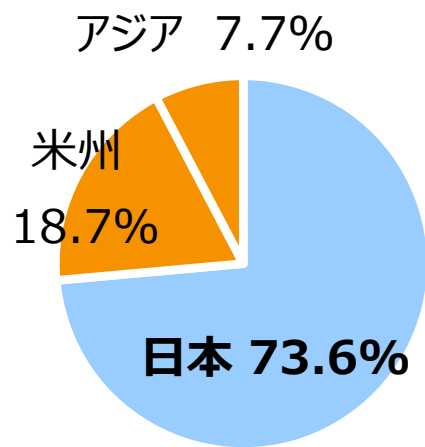
海外市場での成長

- 海外市場での成長により、地域分散の効いた事業ポートフォリオ構築
- 特定地域の需要動向に振られることなく、着実な成長を実現

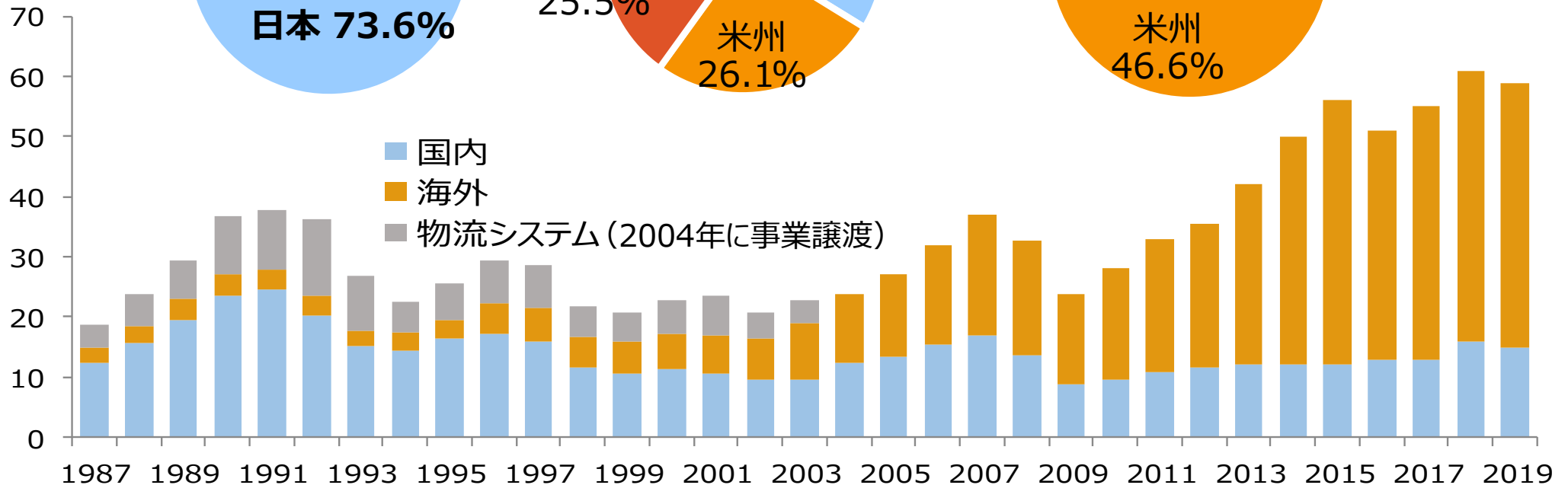
FY2000 売上高227億円
海外売上比率 26.4%

FY2010 売上高280億円
海外売上比率 66.3%

FY2019 売上高587億円
海外売上比率 74.2%



単位: 10億円



中国事業について

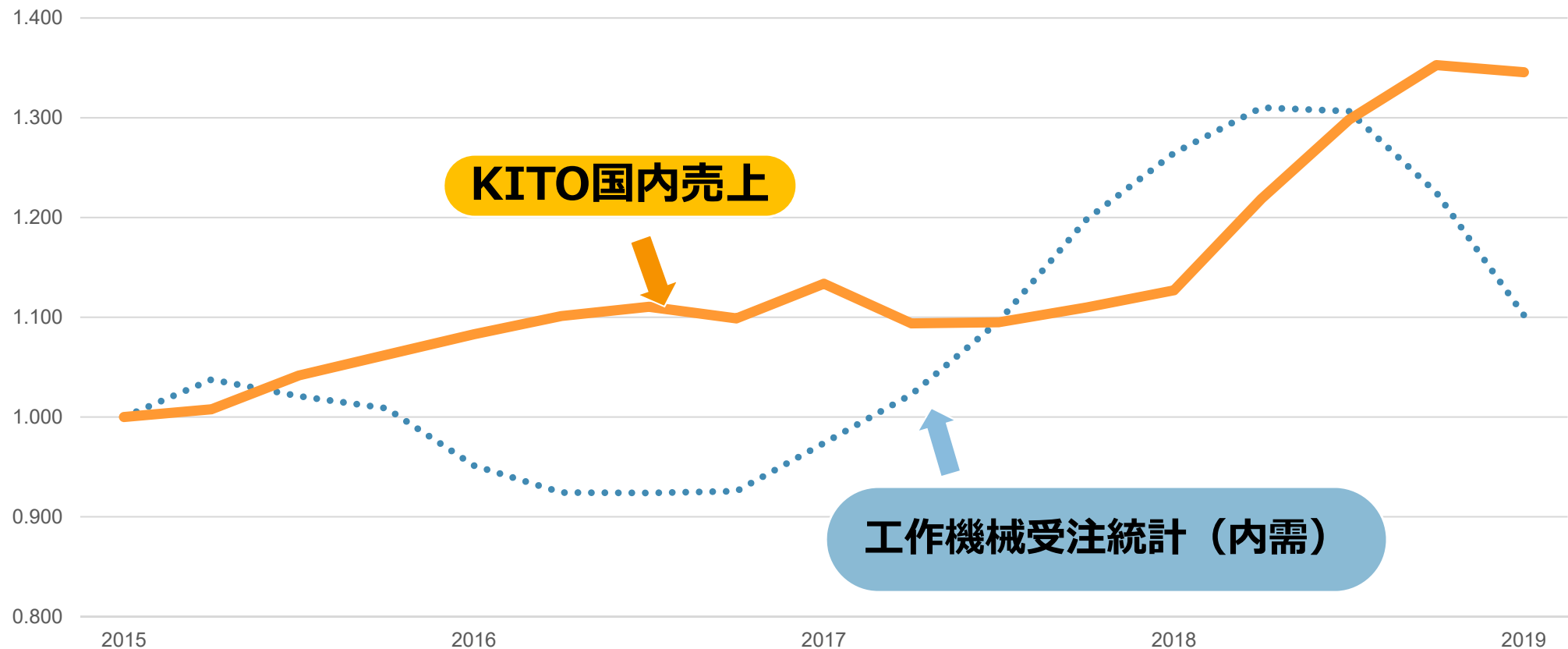
- 全体の設備投資需要が弱含むなかで、好調業種のニーズを捉えると共に、安全意識・品質意識の高まりにより、シェアが拡大
- 高い利益水準を安定的に確保、10%超の営業利益率を継続
- 中国生産の90%以上を、中国国内市場向けに販売

	江陰キトー（1995年 設立）	上海キトー（2004年 設立）
製 品	<u>ワイヤーロープホイスト</u> を中心に、 現地生産・現地販売	<u>日本製チェーンホイスト製品</u> の輸入販売
ターゲット	現地の製造業一般	日系を含む外資系企業、中国大手企業
FY2019 売上規模	約4.0億RMB	約1.0億RMB

市場動向に左右されにくい顧客基盤

- 民間設備投資、公共投資を問わず、広範な顧客基盤
- 特定の業界や、市場サイクルの影響を、受けにくい事業構造

工作機械受注統計（内需） キトー国内売上推移（12ヶ月移動平均）
（2015年4-6月期を「1」とした指数変動）



KITO国内売上

工作機械受注統計（内需）